

News Release

2018年3月15日

日立キャピタル株式会社
株式会社南相馬サステナジー**福島県南相馬市で9.4MW「万葉の里風力発電所」が運転開始**
再生可能エネルギー事業を通して南相馬市の復興を支援

日立キャピタル株式会社(執行役社長兼CEO:川部 誠治)のグループ会社で、風力発電事業を手掛ける、株式会社南相馬サステナジー(取締役社長:佐々木 幸一/以下、南相馬サステナジー)は、福島県南相馬市(以下、南相馬市)の沿岸部に発電容量9.4MWの「万葉の里風力発電所(発電容量2.35MW風力発電システム×4基)」を建設し、本日、商用運転を開始しました。

今回運転を開始した「万葉の里風力発電所(以下、同発電所)」は、日立キャピタルグループ*1と南相馬市の地元企業4社の共同出資会社である、南相馬サステナジーが事業主体となって建設を進めてきたものです。南相馬市は2030年を目途に市内の電力全てを再生可能エネルギーで賄うことを目標に掲げており、南相馬サステナジーは、同発電所の建設に際して、福島県再エネ復興支援事業*2の対象事業者として採択されています。

同発電所の稼働により、年間で約1万トン*3のCO₂(二酸化炭素)排出抑制を実現の見込みです。また、同発電所の年間予想発電量は一般家庭の約4,500世帯分に相当し、発電した電力は20年間にわたって全量を電力会社に売電するほか、「福島県再生可能エネルギー復興推進協議会」を通して、売電収益の一部を活用した植樹などの地域貢献活動に取り組む予定です。南相馬サステナジーを通じた再生可能エネルギー発電事業に参画し、南相馬市の復興への貢献をめざします。また2020年10月には、南相馬市および福島県飯舘村に新たな風力発電所*4の建設を計画しており、南相馬市が掲げる再生可能エネルギー推進へのさらなる貢献をめざします。

日立キャピタルグループは再生可能エネルギーなどの環境・エネルギーを注力分野と位置付け、2013年度以来、風力および太陽光の再生可能エネルギー事業を通じて累積約30万トン*5のCO₂排出を抑制しています。風力発電分野では2003年にリース業界でいち早く金融サービスを提供して以来、日立グループをはじめとした事業パートナーとの連携を強化し、発電システムのリースや保険、ファイナンシャル・アドバイザー(FA)、発電事業などのノウハウを組み合わせたソリューションを一括提供しています。今後も、風力発電事業の拡大により低炭素社会の実現に貢献していきます。

*1 日立キャピタルグループは2016年9月より、南相馬サステナジーに出資参画しています。

*2 正式名称は「再生可能エネルギー発電設備等導入基盤整備支援事業費補助金」。平成27年度に国から福島県に、県内の避難解除区域内に設置される再エネ設備用に交付した補助制度。

*3 CO₂排出抑制量は、年間発電量(予想値)より、地球温暖化対策の推進に関する法律(以下、温対法)を基に当社算出。

*4 日立キャピタルのグループ会社である日立サステナブルエナジー株式会社は、地元企業と共同で、発電容量最大51MW相当の「八木沢風力発電事業」を計画中。

*5 2013年度から2017年度(推計値)の再生可能エネルギー事業の累積発電量より、温対法を基に当社算出。

■万葉の里風力発電所概要

事業者	株式会社南相馬サステナジー
所在地	福島県南相馬市鹿島区南海老ほか
発電容量	2,350kW×4基(合計9.4MW)



「万葉の里風力発電所」外観

■南相馬サステナジー概要

社名	株式会社南相馬サステナジー
代表者	取締役社長 佐々木 幸一
所在地	福島県南相馬市原町区大町三丁目30番地
設立年月日	2013年6月14日
事業概要	風力発電事業を中心とした再生可能エネルギーによる発電事業
資本金	100百万円 (出資比率: 日立サステナブルエナジー株式会社 60.0%、石川建設工業株式会社 13.4%、 庄司建設工業株式会社 13.4%、恒栄総合設備株式会社 13.0%、 株式会社相栄 0.2%)

■日立サステナブルエナジー株式会社概要

社名	日立サステナブルエナジー株式会社
代表者	取締役社長 鈴木 威美
所在地	茨城県日立市幸町三丁目2番2号
設立年月日	2016年3月1日
事業概要	再生可能エネルギー発電事業
資本金	50百万円 (出資比率: 日立キャピタル株式会社 85.1%、株式会社日立パワーソリューションズ 14.9%)

■ニュースリリースに関するお問い合わせ先

日立キャピタル株式会社

経営企画部 ブランドコミュニケーショングループ [担当: 伊藤、川島]

〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目3番1号

TEL 03-3503-2118 (直通)

以上